

11月
13日

「リメンバーin岡崎」を開催

今年度も、岡崎市において「わかちあいの会」を下記のように開催します。今後のコロナウイルス感染の状況によっては、日程変更、中止の場合もあります。

- 日時** 2021年11月13日(日)
13:15-16:00 (13:00受付開始)
- 場所** 岡崎げんき館 愛知県岡崎市若宮町2丁目1-1
名鉄東岡崎駅よりバス
- 内容** 「自死遺族の分かち合いの会」
対象：自死遺族の方限定
- 参加費** 無料 (愛知県地域自殺対策強化事業費補助金事業)

2023年2月の遺族会は会場が異なります

2023年2月に開催予定の遺族会は、いつも使っている「北生涯学習センター」が改装で使用できないため、別の場所で開催します。12月初め頃には決まります。ホームページ、電話案内でご確認の上お越しください。

4月以降はまた、北生涯学習センターの予定です。

各種相談先のご案内

行政、民間で、自死の遺族向けに相談を行っているところがいくつ

かあります。また、「こんな相談先はないでしょうか？」など、ご不明なことがあれば、会のスタッフにお尋ねください。

自死遺族向け面接相談(無料)

○愛知県精神保健福祉センター

要予約 052-962-5377

毎月第3木曜日 午後2時-3時30分

○名古屋市精神保健福祉センターこちら

要予約 052-483-2095

毎月第3火曜日 午前10時-12時

法的なことでの相談

○全国自死遺族法律相談ホットライン

電話番号：050-5526-1044

受付時間：毎週水曜日(祝日を除く)12時から15時まで

自死遺族支援弁護士

<http://www.jishiizoku-law.org/>

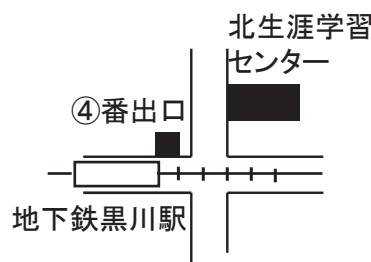
-感染への不安を減らすため、ご協力をお願いします-

- ・アルコールでの手の消毒など(アルコールは準備します)。
- ・マスクをお願いします(予備は受付で準備します)。
- ・トーキングスティック(話す人が合図として持つもの)を使わない形で行います。
- ・大きめの輪か、できるだけ弧に近い形にします。
- ・お茶など飲み物は各自ご持参ください。

次回の遺族会

第112回

10月9日(日)13:15から
名古屋北生涯学習センター
地下鉄名城線「黒川」下車
(4番出口)よりすぐ
参加費:500円



その次は...

第113回 12月4日(日)
名古屋北生涯学習センター

※2023年2月は、会場が異なります。

日程は、ホームページまたは、電話案内でご確認いただけます。
パソコンの方

<http://will.obi.ne.jp/remember/>

携帯電話の方

<http://www.will.obi.ne.jp/m/>

電話案内(録音でのご案内)

090-8544-9408

新聞郵送をご希望の方へ

1月~6月末までのお申し込み(前期)・・・1000円

7月~12月末までのお申し込み(後期)・・・500円

詳しくはスタッフまで

スタッフ募集

遺族会に参加したことがある方で、会の活動のお手伝いをいただける方募集しています。
詳しくはお問い合わせください。

近隣の遺族会のご案内

以下中止・延期の場合もありますので、直前にご確認の上、お出かけください。

次回「ディアレスト」のご案内

家族ではないけれども大切な人を自死で亡くされた方を対象に、遺族会「ディアレスト (Dearest)」が開催されています。オンライン (Zoom) で参加も可能です。

日時：2022年11月20日 (日) 13:30 - 16:00

場所：名古屋市中村生涯学習センター 3F 第2集会室

対象：家族以外の大切な人 (恋人・婚約者・パートナー・親友・同僚・上司・部下・先輩・後輩・先生・生徒、など) を自死 (自殺) で亡くされた方

参加費：500円

連絡先：the.dearest1@gmail.com <http://dearest.heya.jp>

「~こころの居場所~AICHI自死遺族支援室」セミナーのご案内

下記のように、自死遺族向けのセミナーが開催されます。詳しくは、ホームページをご覧ください。

事前予約制です。定員まで残り少ないようです、早めにお申し込みください。

日時：2022年11月12日 (土) 13:15-16:30 (開場13:00)

場所：ウイールあいち 会議室6 (名古屋市東区上野杉町1)

講演テーマ：大切な人との関係性を再構築するためのナラティブとは

※ (編集者注) (ナラティブ：「物語」「語り」といった意味)

講師：国重 浩一 氏 (臨床心理士、NZカウンセラー協会員)

参加費：無料

定員：20名程度 (先着順)

連絡先：事前予約制 11月11日 12:00まで

cocoroibasyo@yahoo.co.jp

<http://cocoroibasyo.org/> (申し込みフォーム)

次回「いっぷく処」のご案内

さまざまな宗派の僧侶の方が集った「いのちに向き合う宗教者の会」による、自死遺族のわかちあい「いっぷく処」のお知らせです。詳細は下記までお問い合わせください。

日時：2022年10月13日 (木)

14:30-16:30 (14:00受付開始)

場所：浄土真宗大谷派名古屋別院 (東別院) 本堂下広間 地下鉄「東別院」下車

申し込み：今回は事前申し込み制です。

右QRコードから、

またはFAX (052)332-0900

連絡先：info@inochi.in

<http://inochi.in/>

申込 QR コード



りめんばー

「生きていてほしい」という言葉が一番苦しかったです。誰よりも生きたいのは私だったので。

9月の初めに新聞に掲載された、作家一村田沙耶香さんへのインタビュー記事の中の言葉です。とても衝撃的で、消化しきれない感じが今も残っています。

村田さんは、中学3年生のころ人間関係に苦しみ、死にたい気持ちと同時に、生への執着が強かったということです。その時、このような言葉をかけられることが、一番苦しかったとありました。

死にたい思いを抱えた人に向かって、「あなたに生きていてほしい」と言葉をかけることは、まるで「ノウハウ」のような形で広まっているところがあります。

自死の遺族の立場として、あの言葉を言っていたら……、あの言葉を言わなければ……、という思いからは、離れることはできません。でも、こんな直接的な言葉でさえ、人によっては救うどころか、苦しみとなってしまふのを聞くと、救えた魔法の言葉などなかったのではないかと思えてきます。

最初にあげた文ですが、実は「当時の私を思い返しても、死を意識することが救いで、……」から始まっています。当人にとっての「救い」とは何なのでしょう。どうしたらよかったのでしょうか。こんな記事に出会うたびに、心がかき乱されます。

(KN)